Ⅳ-105　城下町起源の都市盛岡の風土分析
――日本の都市像に関する景観工学的研究――

岩手大学工学部　正会員　安藤　昭
岩手大学工学部　正会員　赤谷　隆一
㈱大日本コンサルタント　○正会員　戸村　道子

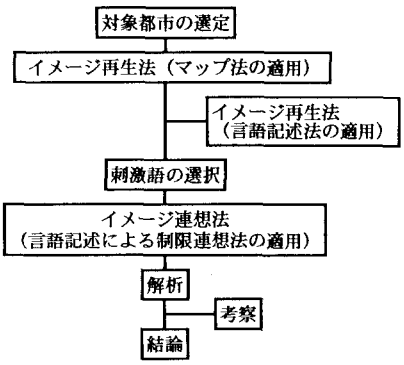
１．はじめに

岩手県の中核都市である盛岡は、三方を山に囲まれ南にのみ開け、内に北上川、中津川、及び雫石川を抱く地形上にあり、自然環境に恵まれている。また城跡や、通りの佇まいなど、日本の伝統的な城下町としての特徴を残している。しかし、近年、都市化が進行してきており、盛岡の個性を生かしたまちづくりが求められている。まちの個性は、風土、つまり自然、歴史及び伝統から引き出されると考える。そこで本研究では、風土分析の手法の開発を行なうとともに、日本の代表的な風景を有する盛岡の風土を分析する。

２．研究の方法

本研究は、図－１に示すフローチャートにしたがって進められた。

まず最初に、マップ法によって都市記憶素材の採集を行なうとともに、空間的イメージを把握する。次いで、言語記述による自由想起によって都市の意味的イメージを把握した。そして、マップ法と言語記述法の調査結果より風土に関連する要素を抽出し、制限連想法のための刺激語を選択する。この刺激語を用いて、言語記述による制限連想法を行い、連想因果図を作成し、各要素間の連想パターンから風土のイメージを把握する。最後に、各要素のイメージウエイトと連想階層図を求め、イメージ構造の分析を行なうとともに、想起関係にある言葉に意味づけを行い、風土分析のためのテーマを求めていくこととする。



図－１　風土分析の手順

３．調査方法

マップ法では、盛岡市内に住む20歳以上の男女を対象に、調査員が被験者の家を直接訪問し、被験者本人に会って調査する、直接面接法で行なった。調査員は、Ａ３版の白紙（約７割りの大きさに枠を書き入れたもの）を被験者に渡し、盛岡市及び周辺地域を自由に絵地図に描かせた。なお作業の途中で枠からはみ出してもよいという指示を出し、調査用紙の大きさによる影響を除くようにした。

自由連想法では言語記述による調査を行った。被験者にＢ４版の用紙を渡し、盛岡市内及びその周辺について思い浮かぶものを自由に書かせた。被験者は、盛岡生まれ盛岡育ちの20歳以上の男女である。

制限連想法とは、言語記述による調査で、刺激語を用いて連想チェーンをつくらせる方法である。連想チェーンとは、次の手順をふんで得られる語の連鎖のことである。

①まず最初に刺激語を提示し、その刺激語から連想するものを語群の中から選び記入する。（第１ステップ）
②次に、今記入した語から連想するものを、同じ語群の中から選び記入する。（第２ステップ）
③以下同様に繰り返し、４ステップの連想チェーンをつくる。

被験者は、盛岡生まれ盛岡育ちの20歳以上の男女である。

いずれの調査も、調査対象地域は盛岡市全域である。また、被験者の個人属性とサンプル数を表－１に示す。

表－１　被験者の個人属性

	イメージ再生法		イメージ連想法
	マップ法	言語記述法	言語記述法
男	６４	７８	７７
女	７４	３８	３７
計	１３８	１１６	１１４

４．分析の概要

制限連想法において、連想を一種の状態の推移と考えると、連想の過程をマルコフ過程とみることができる。刺激語からの連想確率を行列化するとマルコフ過程における連想確率行列が得られるが、この行列は正則であるのでエルゴード的マルコフ連鎖となり、必ず固有ベクトルをもつことになる。この固有ベクトルを制限連想用語の想起パターンを反映した特性値と考えイメージウエイトとし、その連想因果図と連想階層図をもとにイメージ構造を分析する。

５．まとめ

制限連想法の結果からイメージウエイトを考慮した連想因果図と連想階層図（図－２）を描きだした。この解析をとおして導きだされた盛岡の風土イメージの特性は次の４つにまとめられる。

（１）東部丘陵地帯に大山高岳の景観を展望する自然風景地が視点場として存在する。

東部丘陵地帯には身近な緑地が多く、ここからのスケールは雄大である。地域の主峰である岩手山や周囲の山並みは、一連となってイメージされており街全体が自然風景のなかに溶けこんでいる。この自然風景の要素は、盛岡の風土イメージを構成する要素として不可欠の存在である。

（２）ランドマークとして仰ぎ望む盛岡城址が近傍に存在している。

城下町盛岡発祥のシンボルとなる核心的な地区である盛岡城址は、都心部の中津川沿いに位置し、盛岡のシンボルロード（内丸官庁街）にも接している。

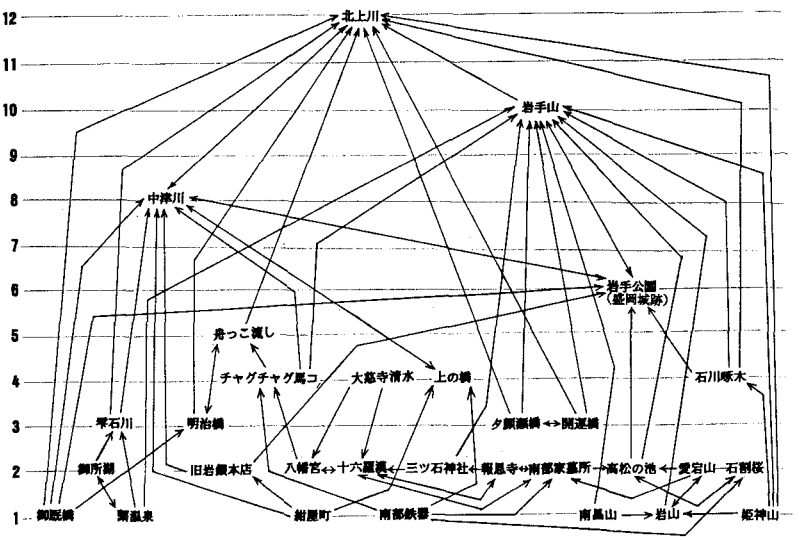
（３）中津川、北上川、雫石川の三河川の浅い流れが低い丘陵の間を流れている。

盛岡は中津川、北上川、雫石川の三河川合流点にできた河岸段丘の地形を利用してつくられたまちであるため、河川網のパターンは個性的な放射状のパターンをなしている。三河川とも都市空間に自然性をもちこみ季節の変化を感じさせる貴重なスペースである。

（４）城下町起源の都市盛岡らしい歴史的景観がモザイク的に分布している。

城下町のイメージを伝える寺社が、南部鉄器やチャグチャグ馬コなどの要素と結びつき、盛岡のまちに歴史と伝統の奥行を生み出す要素となっており、都市に個性を添えている。

以上、盛岡は城下町から発展してきた都市として歴史と自然につつまれ、伝統に培われた都市であるといえる。こうしてできた都市像に言葉を与え求められる盛岡の風土分析のためのテーマは「山と水と緑のある歴史のまち、盛岡」である。



図－２　連想階層図

参考文献　１）安藤　昭，都市景観計画と都市河川　「水辺の景観設計」技報堂出版 p.137～140，1988.12

２）大井　紘，宮本　定明，阿部　治，勝矢　淳雄，生活環境に関する住民の認知と広がりと構造　「土木学会論文集」第389号／IV－8　p.88～92　1988.1

３）堀田　治，文学を利用した地域計画手法に関する基礎的研究，京都大学修士論文，1989.2